

(様式3)

自己評価及び外部評価結果

作成日 平成25年4月16日

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	0890100126		
法人名	社会福祉法人 青丘		
事業所名	小規模多機能型居宅介護施設 かさはら	ユニット名	—
所在地	〒310-0852 茨城県水戸市笠原町355-5		
自己評価作成日	平成24年10月19日	評価結果 市町村受理日	平成25年4月11日

※ 事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報 リンク先URL	
-----------------	--

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	社会福祉法人茨城県社会福祉協議会		
所在地	〒310-8586 水戸市千波町1918番地 茨城県総合福祉会館内		
訪問調査日	平成24年12月12日	評価確定日	平成25年3月29日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

<p>毎食の食事は手作り(職員による)であり美味しい。 キッチンが対面式のカウンター式になっていて職員が料理をする姿や会話をしながら(見守り)の作業がケアに役立っている。 又、ホールのすぐ隣で料理をする音が皆さまに安心と落ち着きを与えられている気がします。 時には夕食を作りながら、料理教室にもなり、自然に皆さまが、キッチン近くに集まってきます。</p>

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点（評価機関記入）】

<p>事業所は開設して間もないため、詳細な職員向けの業務マニュアルは設けず、少しずつ課題に取り組んでいるところであり、利用者は自由な環境のもと穏やかに過ごしている。 近隣の同一法人のグループホームとは互いの運営推進会議に管理者が参加し合い、日頃から情報の共有に努めており、グループホームの近所で火災が発生した際には、グループホームの利用者を当該事業所に避難させるなど、日頃から連携を図っている。</p>

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
I 理念に基づく運営						
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	法人全体としては「富める者、貧しい者、全ての人々に心のこもった医療福祉を」を社訓に事業運営をしている。「かさはら」独特の理念はまだ掲げてないが、常にゆったりと気分良く過ごしていただける対応に心がけている。	法人共通の「富める人貧しき人全ての人々に心のこもった医療、福祉を」との社訓を利用者や職員の眼にふれる食堂の壁面に掲げているが、事業所独自の理念を作成するまでには至っていない。	地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所独自の理念を作成することが望まれる。 理念の作成にあたっては管理者と職員で話し合い、実践につながるよう具体的な内容になることを期待する。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	向かいに系列のグループホームがあり、つき合いもあり、行事等も一緒に行い交流を深めている。又、ボランティアに依るシルバー体操など、徐々に地域の方とも行き来できるよう心がけていく。	職員と利用者は地域の人々と挨拶を交わしながら散歩をしているほか、地域住民が様子を見に立ち寄り、お茶を飲みながら会話を交わすなどで交流している。 地域のボランティアを受け入れ、利用者は週2回シルバー体操に参加している。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進委員会を通し、民生委員の方や地域代表の方に近所の人々にコンタクトを取っていただきながら「かさはら」の場所や内容を知っていただくことが大切に思い努力している。			
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	市職員、御家族、地域の方々に出席していただく依頼をしている。 (2ヶ月に1回) 会議では「かさはら」現在の利用状況や様子を報告と共に毎回テーマを取り上げ、話し合いをする。	運営推進会議は家族等の代表や市職員、民生委員、地域住民の代表などで2ヶ月に1回開催している。 会議では利用者の心身の状況やサービス内容を報告し、委員から出た意見や課題を改善に向けて話し合っている。 会議で出た意見を基に災害時の備蓄品を整備したり、地域住民の代表から災害時における井戸水や米の提供の約束を得るなど、会議の意見等をサービスの質の向上に活かしている。		

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	頻りに市、担当窓口に出向き、相談や協力をいただいている。又、不明な点は電話でも問い合わせをし指導を願う。	毎月市の地域包括支援センターに出向き、事業所の紹介を兼ねて挨拶をしたり、定員の空き状況を報告している。 市担当者に電話で介護保険課に提出する様々な書類作成の相談をするとともに、市担当者からは法改正の情報を得るなど、日常的に協力体制を築き、利用者の生活を市と協働して支え合えるように努めている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	管理者及び職員は身体拘束の弊害を理解し身体拘束をしないケアを心掛けている。本人及び全員の危険防止の為に身体拘束が必要な場合に備えて必要書類を準備している。	毎朝の職員ミーティングにおいて、身体拘束をしないケアについて話し合うとともに、日々のケアの中で職員で身体拘束をしないよう確認し合っている。 身体拘束の禁止事項を全職員が正しく理解できるように、身体拘束をしないケアに取り組むためのマニュアルを整備しているが、研修を開催するまでには至っていない。 「身体拘束をしないケアの同意書」を作成し、やむを得ず身体拘束をする必要が生じた場合にも家族等と一緒に話し合いができる体制は整えているが、玄関の扉は自動ドアで常時施錠しているため、利用者が自由に開けることができない状態となっている。 玄関の解錠に向けて職員で話し合うまでには至っていない。	管理者及び全職員が身体拘束の禁止事項を正しく理解できるよう研修会を開催するほか、禁止事項を全職員が共有できるよう目立つ場所に掲示したり、ネームプレートの裏に携行するなどの工夫が望まれる。 玄関の解錠に向けて職員で定期的に話し合い、施錠をしないケアへの取り組みを期待する。
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	朝のミーティングや職員会議の際に虐待防止の意識が高まるように注意や話をするように心がけている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	玄関先に水戸市発行の「お年寄り便利帳」等のパンフレットを置きいつでも見られるようにしてある。実際にその利用に至らないが、必要に応じて支援していく。		

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	利用契約時に契約書、重要事項説明書でしっかりと説明し、理解、納得していただけるよう配慮している。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族より意見や要望をいただいた時には直ぐに話し合い検討し対応している。玄関に意見箱を設置し、家族からの意見が取り入れられるようにしている。	職員は利用者からの意見や要望を日々のケアの中で直接聞き取るとともに職員で共有し、利用者から出た意見等を受けて献立の改善を図るなど、運営に反映させている。 重要事項説明書に事業所や第三者機関の苦情相談受付窓口を明記し、契約時に利用者や家族等に説明するとともに玄関に意見箱を設置しているが、利用がみられないため家族等の要望の把握が十分とはいえない。	無記名の家族アンケートを実施し、意見や要望を汲みあげるとともに、出た意見や要望は職員で話し合っ具体的対応方法を検討し、改善結果を事業所便り等で家族等に報告することが望まれる。
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	朝の引き継ぎ、ミーティングで、職員の意見や提案を聞き、申し送りノートに記録して運営に反映させている。	管理者は毎朝の職員ミーティングのほか、日々の業務中や退勤時に職員の意見や提案を聞く機会を設けており、トイレの清掃方法の改善を図るなど、職員から出た意見等を運営に反映させている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	母体の病院で月一回定例会議を実施し要望や意見など話し合い、職員1人一人が向上心を持って働けるよう配慮している。		

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員の採用時二ヶ月の見習い期間を設けて、施設内の業務を指導し、採用を決定している。他の施設へも、見学、研修の参加を進んで行っていく。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	近隣にある施設などと、一緒に出来る行事など計画しお互いに協力し合い交流を深めている。困ったことにも助け合い、サービスの向上に取り組んでいる。		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	利用開始の面談時より、信頼関係を築いていけるよう、努力している。本人、家族との面談のなかで、不安や心配が取り除けるように努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族と十分に話し合いを行い、家族の思いを良く聞き理解し、良い関係作りに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	事業所内のサービス調整だけでなく関連施設との情報交換など、協力を頂きながら、支援を行っている。		

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	安心安全で穏やかな気分で過ごす事が出来るよう配慮し、出来ることは一緒に行ったり又、行うよう声かけしながら、見守りをしている。		
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族との連絡を密にし、近況報告をしている。外泊、外出の少ない利用者については協力していただけるよう働きかけ、本人を支えて行くよう努力している。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族だけでなく近所の方々や友人知人の訪問も快く応じ、関係が途切れないようにしている。	管理者や職員は家族等から話を聴き、利用者のこれまでの生活歴を把握するよう努めている。 利用者が家族等や大切にしてきた馴染みの人に年賀状を出せるよう、絵手紙作成の支援をしている。 管理者は利用者の要望を家族等に伝え、家族等の協力を得ながら利用者が親戚宅や墓参りに出かけられるよう支援している。 職員は利用者の知人や友人が事業所を訪れた際にはお茶などを出し、寛いで過ごせるように配慮している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	常に目配り、気配りし、利用者同士のトラブルを回避し、仲良く楽しく過ごすことが出来るよう、支援している。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス利用が終了した方でも、病院等にお見舞いに行ったり、近くに行った時には寄り本人、家族の状況の把握に努めている。		

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	日常の関わりの中でコミュニケーションを取りながら本人、家族の希望に沿ったサービスが提供出来ているか常に話し合い、検討している。	職員は日々の介護記録に把握した利用者一人ひとりの思いや意向を記載して職員で共有を図り、利用者本位のサービス提供に努めている。 利用者の言葉にならない思いなどは、日々の支援の中で表情や態度から気付いたことをミーティング時に全職員に伝え、共有するように努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	利用開始時には十分なアセスメントを行いこれまでの生活環境や馴染みの暮らしの把握に努める。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人ひとりの生活のリズムを把握し、その人にあった過ごし方が出来るよう対応している。心身の状態や様子など記録し、申し送りやミーティング時に検討している。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	毎朝のミーティングで各個人の身体精神の状態を話し合い又、本人、家族、関係者より情報収集を行い介護計画を作成する。必要に応じてモニタリングを行い現状に合ったケアに取り組んでいる。	毎日の職員ミーティング時で話し合い、管理者が利用者の思いにそった介護計画を定期的作成しているが、居宅サービス計画と小規模多機能型居宅介護計画を分けて作成するまでには至っていない。 毎月モニタリングを実施し、支援経過や日々の記録に記載しているが、他の情報に埋もれてしまっており、モニタリングシートとしての個別の様式を作成するまでには至っていない。 利用者の心身の状態に変化が生じた場合は、随時検討して介護計画を見直すとともに、家族等に説明して同意を得ている。	利用者がより良く暮らすための介護計画作成に向けて、居宅サービス計画と小規模多機能型居宅介護計画を分けて作成することを期待する。 モニタリングは月1回利用者の自宅において実施するとともにモニタリングシートに個別に記載するなど、日々の記録と区別ができるよう記録の工夫が望まれる。

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別の介護記録用紙に生活の様子や体調の変化等を記録している。介護日誌、申し送りノートで情報を共有し介護計画の見直しに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	利用の変更について当月の連絡であっても可能な限り受け付けている。その時々ニーズに対応し柔軟な支援に取り組む。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	運営推進会議の場所を利用し、地域の代表の方や民生委員の方より情報をいただき地域の社会資源の把握に努める。困りごと、不明な点は市に相談、指導を受ける。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	協力医院は基より、それぞれ本人のかかりつけ病院の担当者とのコンタクトを取り、相談を行い又、家族の希望も聞き入れながら受診支援を行っている。必要に応じて送迎介助も行う。	入居前のかかりつけ医を変更することなく、納得が得られる医療機関に必要なに応じて受診ができるように支援している。 家族等と受診する場合には、職員は日頃の様子を口頭で家族等に伝え、家族等を通して医師に情報提供し、受診後の報告を受けている。 2週間に1回運営母体の医療機関への定期的な受診を支援しているほか、随時訪問歯科診療が受けられるよう支援している。	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	事業所の看護師や関連施設の看護師と情報を共有し、健康管理やケアについての相談を行っている。毎朝のミーティングで状態確認し計画的に受診や健康管理を行う。		

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には面会に訪れ、安心していただけるような対応を心がける、と共に家族、病院の担当者とコンタクトを取り、本人の情報交換を行い、早期退院に向けて協力対応をしている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	母体の病院、主治医と常時連絡出来る体制が整っている。家族との連絡を密にし、家族の思いや要望に出来るだけ添う対応や支援に努める。	事業所は開設して間もなく利用者が少ないため、重度化や終末期を想定したケアの取り組みを検討する機会を設けるまでには至っていないほか、重度化や終末期に向けた利用者や家族等の意向を確認するまでには至っていない。	早期に管理者や職員、医療関係者と話し合い、事業所としての重度化や終末期に向けた支援の方針を検討するとともに、重度化や終末期に向けた利用者や家族等の意向を確認することを期待する。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急対応マニュアルを作成し、各職員がいつでも確認できるようにしている。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	避難訓練を実施している。近隣の関連施設と何かの時には協力し合える体制が出来ている。地域代表の方とも話し合い、協力いただける体制あり（飲料水・食料）	消防署立会いのもと夜間想定を含めて年2回の避難訓練を実施しているが、地域住民が参加するまでには至っていない。 実施記録を作成するとともに、前回の訓練で得られた課題について具体的な対策を構想するなど、緊急時を想定した取り組みに努めている。 飲料水や菓子、懐中電灯、トイレトーパー、おむつなどを備蓄しているほか、近隣住民から井戸水の利用と米の提供を約束してもらっているが、備蓄品リストを作成するまでには至っていない。 避難経路図を掲示するまでには至っていない。	事業所は災害時に地域との協力体制を構築しているところであるが、更に避難訓練に参加してもらい、現状を理解してもらえるように努めることを期待する。 備蓄品管理のためにリストを作成したり、利用者と職員が常に確認できるように避難経路図を食堂に掲示することを提案する。

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	命令口調にならない言葉遣いに心がけ職員間でも、常に確認し合い、お互いに注意する。又、各個人を尊重する態度での対応に心がけている。	プライバシー保護に関するマニュアルを整備し、職員は利用者の気持ちを尊重するために個室に移動して話を聴く機会を設けたり、命令口調での声かけをしないなど、人格に配慮したケアに努めている。 利用者個人のファイルは面談室の鍵のかかるロッカーに保管している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日々の生活で本人が発する言葉や表現を観察し本人の思いや希望を表し、出来る限りそれに沿って支援し、自己決定出来るように働きかけている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	1日の流れは曜日によって決まっているが、一人ひとりの状態やペースに合わせて柔軟なケアを心がけている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	二ヶ月に一度理容師に訪問して頂き、希望に応じて散髪している。毎日の衣類も本人の意志を尊重し介助に当たる。		

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	運営法人の栄養士が作成した献立の食材をいただき、三食とも職員が調理準備を行っている。職員も見守りしながら一緒に食べる。手作りの食事は好評である。	利用者は食事の後片付けなどできる範囲で役割を担っている。 職員は利用者と一緒に同じ献立の食事を摂り、会話をしながら楽しく食事ができるよう支援している。 食事が楽しみなものとなるよう、利用者と職員と一緒におやつ作りをしたり、手作り弁当持参の花見や公園めぐりを年間行事計画に沿って実施している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養士の献立により、バランス、必要量を確保している。一人ひとりの状態を把握し量や味つけにも気を配る。水分も十分に摂れるような配慮をしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食前の手洗い、うがい、食後の歯みがきを習慣づけている。口腔ケアも曜日を決め定期的に行っている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	利用者一人ひとりの排泄のパターンを把握し時間をみてトイレ誘導する。可能な限りトイレでの排泄が継続できるように支援している。	職員は毎朝の申し送り時に各利用者の体調や排泄状況を把握するとともに、一人ひとりの排泄のタイミングを図りながらトイレ誘導をしたり、自立した排泄ができるよう声かけや介助に努めている。 トイレはいずれも車いす対応で広く、手すりも設置されており、介助が必要な状況でも排泄の自立に向けた支援ができるよう工夫している。	

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘の原因や及ぼす影響を理解し飲食物の工夫や体動等の支援をし、個々に応じた予防に取り組んでいる。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	一応入浴の時間帯、曜日は決まっているが本人の希望も取り入れその都度の対応にも心がけている。それぞれがゆっくり入浴できるよう、工夫しながらの対応である。	週4回午前中に入浴ができる体制を取り、利用者の心身の状態に合わせて、必要に応じて機械浴を取り入れて支援をしている。 入浴に対して負担感などを感じている利用者も入浴を楽しむことができるように一人ひとりに合わせて声かけを工夫したり、無理をせずに清拭や着替えに切り替えるなどの配慮をしている。 職員は入浴のない曜日の午後には、足浴を楽しんでもらえるように支援している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	昼間、外気浴や運動を取り入れたレクリエーションで楽しい時間を過ごすよう対応し良い気分で、休息したり眠れるようにしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	各個人の処方箋をファイルしてあり、全職員が内容を把握出来るようになっている。服用時は間違いが起きないように一人ひとりに確実に飲んで頂くような対応をしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	楽しみや張り合いのある暮らしが出来るよう又、自分らしく過ごす事が出来るよう、その都度出来ることの役割を行っていく。		

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	利用者の状況や天気に応じて外出の行事を企画し実行している。（散歩・ぶどう園等）本人の希望もあり、なかなか全員での外出は困難であるが、家族や地域の人々の協力をいただき、出かける機会を作る。	年間行事計画に基づいた外出支援を実施しており、気分転換が図れるように全利用者と職員で外出を楽しんでいる。花見や公園に出かけたり、ぶどう園見学、紅葉狩り、夏祭りなどに外出している。個別の要望に対しては家族等の協力を得ながらカラオケに出かけたり、職員が買い物に同行している。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	本人の希望や能力に応じてお金を所持したり使えるように支援して行く。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話をかける利用者には、見守りし自分でかけたり、取り次ぎでの対応である。大切な人へ絵手紙などを作る予定も今後あり。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関周りには草花を植えてあり、食堂には季節ごとに全員で作った作品が飾られている。廊下には手すりを設置している。昼間全員で過ごすことが多い、リビングは常に一定の温度を保てるよう換気やエアコンで調整し、心地よく過ごせるよう努力している。	食堂兼居間は開放的な空間で、ソファーに移動してテレビの視聴ができたり、畳敷きの和室ともつながっており、利用者は思い思いの場所で寛ぐことができるようになっている。壁面には利用者と職員が協働で制作した季節感のあるちぎり絵やぬり絵、習字、行事の写真などが飾られており、居心地よく過ごせる空間づくりをしているほか、加湿器を置いて湿度調整にも配慮している。玄関には季節の草花や観葉植物、クリスマスツリーを飾り、生活感や季節感を取り入れて温かみのある空間づくりをしている。	

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共用空間の中で、和室やソファなどで、独りで、テレビを観たり昼寝をしている。テーブルの場所でも利用者が自由に過ごしている時間帯あり。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	休憩、泊の部屋は出来るだけ、同一の利用者が使用できるよう配慮をし、安心して過ごす事が出来るよう工夫している。	利用者は自宅で使い慣れた置時計のほか、タオルやヘアブラシなどの日用品、折り紙や雑誌などの趣味の物を持ち込み、居心地よく過ごせるよう工夫をしている。 利用者が少しでも寛いで過ごせるように、泊まりの時には前回と同じ部屋が利用できるよう配慮している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	一人ひとりの身体機能の状態に合わせて、安全かつ出来るだけ自立した生活が送れるようにする。		

V アウトカム項目		
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	○ 1, ほぼ全ての利用者の 2, 利用者の2/3くらいの 3, 利用者の1/3くらいの 4, ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○ 1, 毎日ある 2, 数日に1回程度ある 3, たまにある 4, ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○ 1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目：36, 37)	○ 1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目：49)	○ 1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○ 1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている。 (参考項目：28)	○ 1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている。 (参考項目：9, 10, 19)	○ 1, ほぼ全ての家族と 2, 家族の2/3くらいと 3, 家族の1/3くらいと 4, ほとんどできていない

64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)	<input type="checkbox"/> 1, ほぼ毎日のように <input type="checkbox"/> 2, 数日に1回程度ある <input type="radio"/> 3, たまに <input type="checkbox"/> 4, ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	<input type="radio"/> 1, 大いに増えている <input type="radio"/> 2, 少しずつ増えている <input type="checkbox"/> 3, あまり増えていない <input type="checkbox"/> 4, 全くいない
66	職員は、生き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	<input type="radio"/> 1, ほぼ全ての職員が <input type="checkbox"/> 2, 職員の2/3くらいが <input type="checkbox"/> 3, 職員の1/3くらいが <input type="checkbox"/> 4, ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	<input type="radio"/> 1, ほぼ全ての利用者が <input type="checkbox"/> 2, 利用者の2/3くらいが <input type="checkbox"/> 3, 利用者の1/3くらいが <input type="checkbox"/> 4, ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	<input type="radio"/> 1, ほぼ全ての家族等が <input type="checkbox"/> 2, 家族等の2/3くらいが <input type="checkbox"/> 3, 家族等の1/3くらいが <input type="checkbox"/> 4, ほとんどいない

(様式4)

目 標 達 成 計 画

事業所名 かさほら

作成日 平成25年4月12日

【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目 標	目標達成に向けた具体的な取組み内容	目標達成に要する期間
1		小規模多機能型のシステムが世間一般に理解されていない。営業がしづらい。	小規模多機能の良さを理解していただき、システムに合った利用者で活気的な施設にする。	地域や各病院などに小まめにコンタクトを取り、営業活動に取り組む。	6ヶ月
2		レクリエーションの充実を図る。レパトリーを豊富にして行く。	利用者に楽しく過ごす時間を提供する。	全職員で、検討したり工夫しながら楽しみを作る。利用者の意欲を引き出し積極的に参加して頂く。	6ヶ月
3		全員で外出する機会が少ない(散歩も含む)	体力作り、気分転換に役立てて行く。	行事企画の検討。かさほらの利用者に合った外出を気軽に行っていく。	3ヶ月
4		業務の連絡が職員全体になかなか伝わらない業務に支障あり。	全員が業務を早くマスターし、スムーズで楽しい職場にする。	各自が申し送りを良く理解出来る体制作りに取り組む ローテーション勤務であり、困難な部分もあり。	3ヶ月
5		職員の技術アップを図る。実施研修も必要。	常に介護者としてのレベルアップに努力していく。	勤務をしながらでも、工夫して時間を作り、他の施設などの見学、研修に参加出来るようにする。	6ヶ月

注1) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入すること。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加すること。